

ひまわり



令和3年7月12日(月)

な 為せば成る



上杉鷹山(うえぎ ようざん)は、宝暦(ほうれき)元年(1751年)7月20日、日向国(ひゅうがのくに=宮崎県)高鍋藩主の次男として生まれました。

祖母豊姫が米沢藩(山形県)出身という縁によって、10歳のとき米沢藩主の養子となりました。

17歳で第9代藩主となったとき、米沢藩は莫大な借金をかかえ、民衆も苦しんでいました。鷹山はさまざまな困難を乗り越えるため、倹約を第一とし、自らが模範となるよう努めました。お殿様と言えは当時の特権階級。着物は高価な絹製のものを着るのが通常

でした。しかし、鷹山は安価な綿製の着物を着ていました。食事は一汁一菜が基本の質素なもので、贅沢はしませんでした。ちなみに、この食習慣が健康につながったという説もあります。そして、新たな産業をおこし、財政の立て直しに全力で取り組みました。

35歳で隠居(いんきょ)した後も政治に関わり、農業用水建設などの大事業を完成させ、養蚕(ようさん)・織物・陶磁器・和紙などの産業を盛んにしました。鷹山の隠居後も、質素倹約の精神は引き継がれました。その結果、米沢藩の経済的危機は徐々に解消され、第11代藩主(斉定・なりさだ)の時には、全ての借金を返すことができたそうです。この史実から、私は次のよう感じました。「正しいことを続けて行えば、必ず良い結果が返ってくる」この事実は、皆さんの生活にもいかなるはずで。また、鷹山が残した言葉に次のものがあります。

「為せば成る、為さねば成らぬ何事も、成らぬは人の為さぬなりけり」

人はさまざまな目標を持ちますが、行動を起こさなければ、成るものも成らないということです。今年の4月、新たな目標をもって進級した人も多いことでしょう。その目標の達成に向けて努力を続けていますか。せっかく立てた目標ですから、達成できないのは残念なことです。そうならないためには、初心にかえり、行動を起こすことです。

藩主 ⇒ 殿様 隠居 ⇒ 第1線からの引退 質素 ⇒ 贅沢をせず、簡素に暮らすこと
倹約 ⇒ 節約 養蚕 ⇒ カイコ(蚕)を飼ってその繭から絹を作る産業

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。

